

北陸大学 6年制3年次生に対するコミュニケーション力養成教育の試み

○高野 克彦¹, 大柳 賀津夫¹, 大本 まさのり¹, 高橋 達雄¹, 木村 聡子¹,
小藤 恭子¹, 佐藤 隆¹, 松原 京子¹, 鍛冶 聡¹, 礒部 隆史¹, 興村 桂子¹,
要 衛¹, 倉島 由紀子¹, 佐藤 友紀¹, 周尾 卓也¹, 毎田 千恵子¹, 山折 大¹,
米田 浩子¹, 脇屋 義文¹, 宮本 悦子¹, 中川 輝昭¹, 村田 慶史¹, 光本 泰秀¹
(¹北陸大薬)

【目的】最近、コミュニケーション力を高める教育が注目されている。チーム医療や患者への接遇といった薬剤師の立場に必要なコミュニケーションの基本として、相手の気持ちに共感できることの重要性を趣旨に本プログラムを実施した。

【方法】対象は本学の6年制薬学部3年次生(304名)とし、平成20年4月から7月にかけて計7回(210分/回)実施し、学生はいずれか1回に参加した。学生5~7名で1グループとし、グループ内で日常生活における対人関係のトラブルを題材に、どのようなコミュニケーションをとることでトラブルがさらに悪化するか、また回避されお互い気持ちのよい関係が築けるかを、ロールプレイを交えたスモールグループディスカッション(SGD)形式の討議(約120分;担当教員1~2名/グループ)を行った。引き続き、全体発表(5分/グループ)ならびに討議を行った。その後、マークシート式のアンケート、及び記述式の自己・同僚評価を実施した。自分が本プログラムから得られたことに加え、授業に対する意見をレポートとして提出させた。

【結果・考察】学生の参加率は31%、このおよそ7割がSGD形式の討議は初めてであった。アンケート・自己評価からは、SGDに違和感なく取り組めた、日常生活に役に立つ・意義があると思うとする意見が多く得られた。レポートからは、本プログラムに対し概ね肯定的な感想が聞かれたが、もっと実践的な(对患者を想定した)ことをしたかった、教員の関与の仕方に問題がある、等の意見が聞かれた。SGD形式が初めての教員もおり、関与する教員の確保ならびに指導力の向上などが今後の主な課題と考える。加えて、単位認定の対象ではなかったため学生の参加率が低く、今後内容に関して改善が必要である。